

自己評価および外部評価結果

事業所名: **青葉町日和**

[セル内の改行は、(Alt+Enter)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義、事業所の理念について月1回のミーティングで再確認や共有を行なっている。また、事務所内に掲示している。	理念は玄関・事務所に掲示してある。ミーティングは、夜勤者を除いた職員全員で実施している。職員は、理念に沿って利用者一人ひとりと向き合い本人の希望を見つける努力をしている。ミーティングでは、常に理念に基づいた行動ができるよう確認し、具体的なケアの統一を図っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	地域行事は、防災訓練や夏祭り等積極的に参加している。青葉町民生委員は、運営推進会議に出席頂いており、日頃日和の活動を報告している。行事に参加した際は、ご利用者様に声を掛けて下さり、地域の方との交流が出来る。また、節分の日には毎年大神さんより鬼が来て、節分行事を盛り上げて下さっている。	日常的にグラウンドや近隣の散歩・買い物に出かける等地域の方との触れ合いがある。ギター演奏・ハワイアンバンド等のボランティアの訪問もある。また、3事業所の合同夏祭り・さんま焼き・クリスマス会等で地域との交流の機会がある。地域の行事にも積極的に参加して地域の一人としての交流に力を入れている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	他法人の運営推進会議に互いに出席している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、地域包括支援センター、民生委員、他事業所の方へ出席頂き、活動報告を行なっている。頂いた貴重な意見はサービスに生かすようにしている。議事録を作成し、回覧共有している。	小規模多機能型事業所と合同で偶数月の第2週に開催している。10名ほどの委員の参加がある。不審者対応訓練や感染症対策等の意見があり情報の共有を図っている。自治会からは防災に関する勉強会の資料をいただき、災害時の訓練に役立っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の議事録を作成し、市町村に提出している。また、日頃より運営していく上での疑問や質問等、解らない事があれば、直接出向いて連携をとっている。	運営推進会議録は郵送しているが、事業所の実情や改善内容・加算取得について相談したり、事故報告書の提出時に担当者や話すなどの機会を持っている。また、市の触れ合いサポーターを月2回受け入れており、市との協力体制を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないケアの実践の為、月1回のミーティングでの勉強会や法人内の身体拘束防止委員会(3ヶ月に1回)開催し、意識的に取り組んでいる。また、マニュアルは何時でも閲覧出来るようにしている。	身体拘束防止委員会録を踏まえて月1回のミーティングは、身体拘束・スピーチロックの対処ケアだけでなく、拘束にならない声掛けはどうするかを自分たちが考える場を設けて、マニュアルの共有だけでなく身体拘束をしないケアの実践に繋げている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についても、ミーティングでマニュアルを用いて勉強会を行なっている。日頃の業務の中でも互いに注意しあえる環境作りを行ない、意識的に取り組んでいる。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	CM,管理者は権利擁護研修を受講し、研修内容を勉強会で共有出来るようにしている。また、研修資料をいつでも閲覧出来るようにしている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学の際にも説明を行うようにしている。また、契約の際には丁寧に説明するように心掛けている。ご利用者様やご家族様の意見や要望も言って頂けるよう関係作りを心掛けている。			

自己評価および外部評価結果

事業所名: **青葉町日和**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様に対しては、年2回意見や要望をアンケートとしてお聞きしている。また、その内容はプランに反映したり、ミーティング内で職員間共有している。また、来年度は家族会の開催も検討しており、直接ご家族の意見等を伺う予定でいる。	管理者・介護支援専門員のどちらかが常駐し、家族の来訪時には、声掛け・状況報告を行うなど何でも言ってもらえる雰囲気作りを心掛けている。日頃も本音の引き出しの工夫をし、ケアプラン作成時の意見・要望と共にミーティングで話し合い、意見の反映に努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の常勤会議や管理者会議で、法人内連絡、報告、相談を行なっている。また、月末ミーティングには、日勤常勤の職員は、全員が出席出来る体制にし、意見交換や情報の共有を行なっている。夜勤専属の職員に対しては、直接申し送りや議事録の閲覧を行なっている。	年1回の自己評価を基に事務長との個別面接がある。月1回の会議では、要望・希望の提案が出る。利用者の状況に合わせた勤務体制の変更が出来た。年間行事の担当を決めイベント企画や馴染み外出の計画を立てている。カラオケの機械・ホワイトボードは、希望があり購入した		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を年1回行い、その後人事担当の事務長が個人面談を行った上で、来年度、個々の職員に向けた雇用整備を行っている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受講出来る環境作りや研修後の勉強会の実施。月1回のミーティングでは、テーマを決め勉強会を行なっている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターで開催している研修会の参加や研修、他事業所の運営推進会議の出席等で交流の機会を確保している。			
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の見学や契約の際に、自宅や病院等に面接を行なっている。生活歴の聴き取りやご本人様、意見や要望を反映したプランの立案に努め、安心してホームでの生活が送れるように支援している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談や契約の際に、要望や意見をお聞きし信頼関係の構築に努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様の状態を常に観察し、ご家族とも協議しながら御本人に合うサービスを検討している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事出来ない事を見極め、出来ない事への適切な支援に寄って自立した生活が送れるよう心掛けている。			

自己評価および外部評価結果

事業所名: **青葉町日和**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が気軽に来所して頂ける環境作りを行なっている。また、ご家族様と一緒に過ごせる時間を大切に考えている。ご家族様が一緒に参加出来る行事を立案し、参加をお願いしている。年間行事一覧や毎月のお便りで、行事や日々の生活の様子をお伝えしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	兄弟、親戚の方等の面会時には、自室でゆっくり過ごせるようにしている。また、手紙や年賀状の送付も行なっている。	入居時の面接からなじみの人や場を把握している。家族・友人・知人・親戚の来訪やアクティビティ等の機会からも馴染みの関係を把握している。新聞のお悔やみ欄から知人の告別式に参列したり、家族と一緒にお墓参りや外食など一人ひとりの生活習慣を尊重した支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	趣味活動や散歩等の個別ケアや年間行事、カラオケ等の集団ケアを通じてそれぞれの時間を楽しく過ごすこと。生活の中での掃除や洗濯物干し等で互いに助け合い、支えあう関係作りをしている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	定期的に移行先に連絡しご本人様の様子を聞いている。家族と連絡する事もあり、必要に応じて相談を受ける事もある。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様1人1人としっかり時間をとり、ご本人の希望や意向を聞き生活の中で反映できるよう努めている。お風呂が好きな利用者様にはデイサービスの温泉に入ってもらうなど他部署の資源も活用している。	利用者は、全員が自分の思いを伝える事が出来る。編み物・散歩・外出・温泉に入りたい等の希望がある。午後のアクティビティの時に時間を作って思いを汲み取り次の活動に繋げている。レク活動は個性を尊重して一人ひとりの気持ちに寄り添う支援に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される前の生活の状況を把握し、今までの生活リズムを変えないように配慮している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の状態を常に観察し、職員間で情報を共有し対応するようにしている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ケースカンファレンスを行い、更新時などにはご家族や主治医から意見や要望を聞き担当者会議も行なっている。	利用者・家族の意向は居室でゆっくり聞いている。ケース記録やカンファレンスの意見を基に毎月介護支援専門員がモニタリングを実施している。また、担当者会議を開き半年毎に見直してプランの更新を行なう。状態変化時は、その都度医師・家族・職員で話し合い、プランを変更している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録の確認や職員から聞き取りをし、計画書の見直しに活用している。			

自己評価および外部評価結果

事業所名: **青葉町日和**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内の合同行事に加え、ホーム内でも毎月ごとに行事を計画し取り組んで頂いている。利用者様の希望での外出や外泊も行っている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員と交流したり、自治会主催の行事に参加するなどして地域社会との交流を図っている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の往診や必要に応じ受診を行い、利用者様の情報を共有し内服調整などしている。年に一度の健康診断も時期をみて行っている。利用者様の馴染みの病院への通院も継続出来るように対応しており、無理に主治医を変更しないようにも努めている。	入居前からのかかりつけ医受診は3名おり家族が対応している。月毎の一覧(バイタル表)を受診時家族に渡す。受診後は口頭で報告を受け業務日誌に記録し職員で共有している。往診医が月2回・歯科医が月1回と週1回の訪問看護で利用者の体調確認・健康管理を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と情報を共有し、介護職ではできない浣腸などを適宜に実施している。緊急時等には日頃からの相談先として法人内の看護師にも相談している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際は、主治医に相談やご家族と協力・連携し利用者様の早い回復に努めるようにしている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に関しては、契約時に事業所で出来る事をしっかり説明し理解を得るようにしている。状態変化し場合は早い段階でご家族と連絡しあい支援できるようにしている。	看取りの具体的な指針はあるが、今は看取りをしていない。重度化になった場合のため、病院への転院・施設への入所の説明はしている。身体的重度になっても入浴支援などは、可能である。医療行為が必要になった時点で医師・訪問看護師・家族・職員が連携を取り、家族の希望に添って納得した最後を迎えられる様に支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティング内で事例や事故発生時の対応について説明している。またヒヤリハットや状況報告書の統計をとり、情報共有しながら活用している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人内合同での年4回避難訓練の実施。連絡網の作成。非常食等の備蓄。県の防災サイトの確認を定期的に行っている。	法人合同で年4回実施し、一度は夜間を想定した訓練を夜勤専任職員も参加して行なった。水害や地震・火災時の避難場所を家族に連絡したり、地域の方や消防隊に分かりやすい様に非常階段に利用者の名前と避難順番を掲示してある。消火器の使い方の指導も受けている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を守り、尊敬、敬う心を忘れず、意識的に日々の言葉掛けやケアを実践している。	利用者の意向に沿って名前を呼んでいる。声掛けは近くから、部屋に入る時はノックと声掛けを行う等、人権やプライバシーを損ねない対応を心掛けている。職員は、権利擁護の研修会に参加しており個人情報も含めて意識した対応に心掛けている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名: **青葉町日和**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	起床時の衣類の選択や買い物の支援。趣味活動が自由に行なえるよう支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとりひとりのペースに合わせて、必要に応じて自室で食事したり、午睡や自室で過ごす、寛ぎの時間も大切にしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みの身だしなみやおしゃれが出来るように、その都度希望をお聞きし、おしゃれが楽しめるように支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日会では、好みのメニューを伺い一緒に調理したり、皆さんの意見を取りまとめ外食に出かけたりしている。日々の食事の時は、準備や片付け等はご自身で行えるように声掛けしたり、一緒に行なうようにしているが、気分が乗らない時はご本人の意思を尊重している。	昼・夕食は業者から献立メニューが届き湯煎調理を行なっている。週1回土曜日の昼食は、利用者の好みを聞いて麺類・ほうとうや餃子等利用者と一緒に調理し食べている。月1回は、ラーメン・寿し・焼肉などを食べに行き利用者の楽しみに繋がっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者様の状況に合わせて、固いものを刻んで提供している。むせ易い方には、トロミ対応を行なっている。食事量や水分量を記録し、摂取量の把握に努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは、全身の健康や病気の予防、美味しく食事することにも繋がることなので、毎食後実施している。月に1回主治医の歯科医師の往診を受け、義歯の調整やクリーニングを実施している。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄チェックを実施し、排泄パターンを把握。適宜誘導を行い、排泄の自立を促している。	トイレ排泄を大切に排泄チェック表を基に随時誘導・見守りを行なっている。自力トイレの方が殆どで過剰な誘導はしないよう配慮している。職員が上手に関わることでリハビリパンツから布パンツに替わった方が1名いる。夜間も個々の利用者に合わせたトイレ誘導を行なっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医と相談し、内服コントロールする場合もあるが、運動や水分量を確保し、排泄のリズムを整え、個人に応じた予防に努めている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個人の希望を尊重し、入浴できるようにしている。ホーム内での入浴だけでなく、法人内の温泉も利用している。失禁があった場合は、状況に合わせて対応している。	浴室は毎日使用出来る体制である。利用者は希望に添って週2~3回入浴している。法人内にある広いイオウ温泉に入ることも利用者の楽しみとなっている。冬至の柚子湯やバスクリンの使用で気持ち良く楽しんで入浴してもらえる様、工夫している。入浴を拒否される利用者は今はいない。		

自己評価および外部評価結果

事業所名: **青葉町日和**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は、ご利用者様の生活習慣に合わせて安心して眠れるように支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服は専門医に相談し、内服している。副作用についても情報を共有し、職員全員に申し送りして。また、個人のお薬説明書をファイリングし、閲覧している。食前後の配薬や服薬助助の際は、ダブルチェックを実施し、誤薬がないよう努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味活動を積極的に取り入れている。年間行事を計画し、適宜外出や外食等行なっている。また、ご家族との外出の機会も確保している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候に合わせての近所への散歩は定期的に行なっている。お花見や紅葉狩り、外食等の定期的に出かけている。また、ご家族との外出も出来ている。	普段の生活の中で戸外に出る機会を多く作り、毎日買い物や散歩に出かけ近隣の方と挨拶を交わしたり花を見て歩いたりしている。家族の協力を得てハーブ庭園・夜間のイルミネーション鑑賞・紅葉狩り・花見・博物館・外食などにも行っている。また、地域の運動会や祭りにも参加し地域の方との交流も楽しみの1つである。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望時は、買い物へ出かけている。ご自身でお小遣いを管理している方も居る。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や親戚、ご友人のと電話の取次ぎは適宜行なっている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夜間は廊下や室内の照明を調整している。共有スペースのテレビの音量も調整している。室内装飾は、季節感を大切に、皆で作成したり、飾りつけを行なっている。	共有空間は季節感のある飾り付けがあり壁画・七福神が額に入れて飾ってある。玄関入口は花の鉢植えや可愛い小物が置いてある。ソファ・テレビ・テーブル・椅子・加湿器が2台置かれ家庭的な雰囲気居心地の良い空間となっている。キッチン是对面式となっていて、廊下の奥には往診の医師が使用するスペースがある。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファの位置の工夫や、仲の良い方同士が交流出来るようにしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や大切にしている物をご持参して頂き、その人らしい生活が維持できるようにしている。	居室は明るく日当たりも良い。ベッド・冷暖房・洗面台・椅子・カーテン・洗面用キャビネットが備え付けてある。タンスやテーブルなど、それぞれの好みの家具が置いて有り、時計・人形・習字・写真・写経等が飾られて利用者が居心地よく生活できる環境づくりが出来ている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の居心地の良い空間作りを心掛けている。おひとりおひとりが自立した生活が送れるように必要時に応じて掲示したり、職員が声掛けを行ないながら支援している。			